

農学知的支援ネットワーク（JISNAS: Japan Intellectual Support Network in Agricultural Sciences） 国際連合食糧農業機関（FAO: Food and Agriculture Organization of the United Nations）

令和3年5月より、JISNASとFAOは、主として日本の大学や研究機関の学生や研究者を対象に、FAOの有する食料や農業の最新情報について、より身近に接し活用する機会を日本語で提供するため、新たに月間合同セミナーを開くこととし、5月末までにすでに2回にわたり実施しました。この合同セミナーを継続して開催することにより、持続可能な食料システムへの変革を推進するための具体的な行動の一環として、幅広い情報共有、人材育成、ネットワークの構築と拡充に貢献していきます。

日本を含む世界全体の問題としての食料システムを変革していくうえで、日本の大学や研究機関が担う役割は大きく、本コミットメントは生態系の保全と持続的生産を前提とする環境に調和した農業の推進、ならびに食料のサプライチェーンの最適化に向けて重要な役割を果たすと期待されます。

【具体的な取組・目標（コミットメント）】

1. 本セミナーにおける発表や討議は日本語で実施するため（通訳サービス含む）、通常では言語の制約や情報の専門性などにより国連機関や国際組織の持つグローバルな技術的知見にアクセスできない人でも参加し対話できる場を設けていきます。
2. FAOの有する食料や農業に関する知見、及び世界の食料システム変革について、一般市民にも、直接または間接的に、幅広く知識や理解を広げる機会を提供していきます。
3. 日本の大学や学生、研究機関や研究者などが、食料システムに関する世界的なパートナーシップに参加・連携する機会を増進させます。
4. 若手の学生や研究者などを対象に、若い世代の声を発表・討議する場を設けるとともに、国際的な視野を身につけ、職務経験となる機会を設けるなど、人材育成に貢献していきます。
5. 本合同セミナーでは、地球規模の課題解決のため、大学や研究機関が、今後一層分野横断的、学際的に取り組むべきであることが再確認されました。この期待に応えるべく、大学や研究機関は、持続的かつ強靱な食料システムの構築、変革に向け、情報・知識、議論の集積に加え、それらを社会実装に結び付けるような研究や教育を推進していきます。

JISNASとFAOは、定期的に本コミットメントの実施状況を評価し、その見直しや変更を適宜検討していきます。

